

## 解答

一

問一 ① エ ② ア ③ イ ④ オ

問二 a オ b エ c イ

問三 ミュンシュの純真さに溢れる子供の心が、彼の音楽をいつまでも若々しく、美しく輝かしていると考えている。

問四 今まで自分が楽しんでいたことを無理やりに中断させられ（たから）

問五 彼の興味を惹く物が消えるまでは、じっと待っていないなければならないこと

二

問一 ウ

問二 大きい子供をくぐるようにして少しだけ前へ出た（という行動）

問三 よそから転校してきた生徒が、大きい生徒に文句を言われていること

問四 ウ

問五 ア

問六 ④

問七 立派（な人）

問八 （子供が）生意気で「わし」といったわけでは（ないのに）

問九 あおくなりおどおどした少年を助けられなくなること

問十 大きい生徒が少年に手を出すかもしれないと思ったから

三

問一 見知らぬあいてとむかいあってものを食べること

問二 オ

問三 1 習慣 2 心理 3 背後

問四 もうひとつのからだ

問五 食べることは本来自分の「ナワバリ」でおこなうもっともプライベートな行為だが、相席はこの「ナワバ

リ」をたがいに侵すことになるから

問六 日本人が大むかしから床やたたみの上にすわってくらしてきた（から）

四

① けいこう

② さらいしゅう

③ かんぬし

④ あくとく

⑤ そんげん

⑥ しゅうしゅう

⑦ ひき

⑧ ちあん

⑨ さどごころ

⑩ さいしゅ

五

① 頭角

② 追加

③ 気候

④ 鉄筋

⑤ 出荷

⑥ 不敵

⑦ 業績

⑧ 品定〔め〕

⑨ 反〔らす〕

⑩ 速〔やか〕

## 解説

一

問三

本文の後半からミュンシュの性質がわかります。機嫌の悪い子供のような稚気と純真さが溢れている名指揮者であることや、「子供の心が、彼の音楽をいつまでも純粹で若々しく、美しく輝かしているのに違いない。」という記述からわかりやすく説明します。

問四

本文からは、ミュンシュが何か自分が楽しんでいたことに夢中になると、周囲に全然反応を示さなくなるような、子供の心を持っている人物であることがわかります。パーティの時に筆者が思いきって話しかけたことにより、周囲の人たちと談笑していたミュンシュは「今まで自分が楽しんでいたことを無理やりに中断さ

せられ（たから。）——線部(2)のようにしたことがわかります。

二

問五

良平らのところでは、子供は「わし」とはいわないので、「わし」といった転校生が生意気に思われています。大きい生徒は「お前、わが身のことを『わし』っていうたんか。」といった後に、「そんなこといわん……」とでもいわれれば、張合いがあつたが、「うん……」といわれてしまったので、それ以上手が出なくなつたという状況から、選択肢Aが選べます。

問十

大きい生徒は、この少年が生意気で「わし」といったと思ひ込んでいることをおさえます。「あしたから『わし』っていうたら承知せんぞ。」と凄み、ずいと傍へよっている様子を見た良平は、大きい生徒が少年に手を出すかもしれないと思ひ、はつとしたことがわかります。